

# 学習者の母語から見た 機能の損失を表す「壊す」の意味 —— 韓国人日本語学習者の意味習得への提言

薛 惠善

## ◆要旨

本稿では、「壊す」の持つ「機能の損失」の意味に注目し、韓国語の「부수다」との比較を通して学習者が「壊す」の意味を学習する際、どのような理解を促すべきかを提案した。両者は、いずれも外見の損傷と機能の損失を表し得るが、「부수다」が外見の損傷が不可欠なのに対し、「壊す」は外見の損傷を伴わない場合があること、また、「부수다」とは異なり人工物ではない対象にも使用できることを指摘した。動作主の働きかけが明示されない自動詞の場合も、「壊れる」は機能への作用が想定され、外形が変化しても機能が損なわれないと使えないが、「부서지다」は外見への働きかけが想定され、自然と生じる不具合は表現できないことを示した。本稿の分析により、特に機能の損失を表す「壊す／壊れる」の意味が十分習得できていない場合、母語動詞の転移によって、適切な理解と使用につながらない可能性が示唆される。

## ◆キーワード

意味習得、機能の損失、壊す、壊れる、  
韓国人日本語学習者

## ◆ABSTRACT

This paper aims to propose some aspects that should be emphasized when Korean learners of Japanese learn the verb *kowasu* and its 'loss of functionality' meaning. This will be informed through a comparison with the Korean verb *pwuswuta*. Although *kowasu* and *pwuswuta* both can express a loss of physical integrity and a loss of functionality, for *pwuswuta*, physical damage of the object is necessary, while *kowasu* can be used when the object is not physically damaged, and when the object is not artificial. As for intransitive verbs, *kowareru* implies that the function of the object has been affected, and it necessarily entails a loss of functionality. In contrast, it is assumed that something has happened to the surface of the object in case of *pwusecita*, therefore it cannot be used to express a mechanical malfunction.

## ◆KEY WORDS

verb acquisition, loss of functionality, "kowasu", "kowareru", Korean learners of Japanese

*Kowasu* and Its Loss of Functionality  
Meaning from the Perspective of  
the Learners' L1  
Some implications for the vocabulary acquisition  
of Japanese by Korean learners  
HYESEON SEOL

## 1 はじめに

日常生活において頻繁に行われる破壊・切断行為を表す「壊す」は、日本語学習者が基礎としてはじめに学習すべき基本的な語であるとされる(国語研究所1984)。しかし、「壊す」を日本語学習者が使用する際には困難も多く、習熟度の高い上級韓国人日本語学習者にも以下のように、日本語母語話者は使用しない「壊す」の使用が見られる<sup>[註1]</sup>。

- (1) ?ハンマーで皿を壊しました
- (2) ?両手で棒を壊しました (薛2016)

「壊す」とそれに対応する韓国語の「부수다 (pwuswuta)」<sup>[註2]</sup>は、(3)と(3')が相互に訳され、両者の意味が対応している場合もあるが、(4)を(4')に訳すことができないように、両者の意味が対応していないこともあり、意味にズレがあると考えられる。その場合、(5)のように別の語を用いて訳される。

- (3) ドアを壊して中に入る。
- (3') 문을 부수고 안으로 들어갔다. (尹2009)
- (4) ラジオを壊したので修理に出した。
- (4') ?라디오를 부수어서 수리하러 보냈다.
- (5) 라디오를 고장내서 수리하러 보냈다 (ラジオを故障させたので修理に出した). (金星出版社編集部2006)

(1)と(2)の学習者の使用例には、上述のような母語と目標言語との相違が影響していると考えられる。これを踏まえ、本稿では、「壊す」と韓国語の「부수다 (pwuswuta)」に焦点を当て、それらの意味上の共通点と相違点を明らかにし、韓国人日本語学習者の日本語の意味習得に示唆を与えることを目的とする。

## 2 先行研究における「壊す」の意味

先行研究において、「壊す」の基本的な意味は「人などが、硬い物に力を加えて、その形を変形させたり、バラバラにする」(国語研究所『基本動詞ハンドブック』)と記されている。「壊す」の対象物はいずれも製作物・建物・建造物などの、人為的に生み出されたもの(人工物)になることが多く、脆い、割れやすい、弾性に乏しいという性質を帯びるものである(森田1989)。意志的な「壊す」は、このような人為的生産物に激しい打撃を加えて、砕いたり、破損させたりして使えなくすることである。また、人為的に生み出された物が対象になるため、物の外形を失わせるよりも、むしろその働きを失わせる意味で使われることが多い(小学館辞典編集部2003)。国広(1970)は、転用法である「お腹を壊す」、「体を壊す」が、「機能が完全でない」ことを意味することを挙げ、「壊す」の意味において「構造・機能を破壊し、不完全にする」ことが肝心な意義素になると述べている。

国語研究所の『基本動詞ハンドブック』の意味記述では、機能を持った物(器具、機器、機械など)の機能が正常に働かなくなることを別義として立て、パソコンのように複雑な機器の場合、パソコンを落としてバラバラになった場合の「パソコンを壊した」と、外形は異常がないが電源を入れても起動しなかったり、正常に作動しない場合の「パソコンを壊した」を別の語義として分けている。

## 3 「부수다 (pwuswuta)」から見る「壊す」の意味

「壊す」動作によってもたらされる変化状態は、対象物が元来持っている完全な外形が損傷し、その機能が損なわれる場合と、外形の損傷なく対象物の機能が損なわれるという二つの場合に分けられる。

- (6) 時計を壊した
- (7) 石の床に時計を落っことして壊した
- (8) ねじを巻きすぎて時計を壊した

- (6) 시계를 부수었다  
 (7) 돌바닥에 시계를 떨어뜨려서 부수었다  
 (8) ?태엽을 너무 감아서 시계를 부수었다 (森田 1989 : 韓国語訳は筆者による)

(6) は、(7) が表す外見的な損傷と (8) が表す内部的な損傷の二通りに解釈できるが、(6) から (8) の韓国語訳である (6') から (8') に使われた「부수다 (pwuswuta)」は、外見的な損傷のみにおいて使われる場合が多く、それが内部的な損傷として捉えられるためにはそれに適した文脈が必要である。そのため、「부수다 (pwuswuta)」が用いられた (6') から真っ先にイメージされるのは (7) であり、(8') も、行為の結果、時計としての働きが失われるという (8) の解釈ではなく、外見的損傷に捉えられやすい。次節では、「機能の損失」に焦点を当て、このような「부수다 (pwuswuta)」と「壊す」の意味上の相違について述べる。

### 3.1 対象物が人工物である場合

#### 3.1.1 外見的な損傷を伴う場合

外見的な破損が伴われる場合の破壊の対象物は、(9)・(10) とその韓国語訳である (9')・(10') のように、「壊す」と「부수다 (pwuswuta)」両者とも人工物である場合が多く、人工物に打撃を加え、その外形を砕いたり破損させたりし、使えなくすることを表す。

- (9)おもちゃを壊す  
 (9') 장난감을 부수다  
 (10)古い家を壊す  
 (10') 오래된 가옥을 부수다 (尹 2009)

このような場合、対象物の外形が損なわれることにより、その影響が機能にまで及び、物の働きまでが損なわれると捉えられる。外からの衝撃により、人工物の外見(表面)が多少損傷しても、機能の損失を伴わない場合、(11)と(12)の「壊す」は容認されにくくなる。

- (11) ?パソコンを落っことして壊してしまったけど、まだ使えるよ。  
 (12) \*パソコンを壊してしまったけど、まだ使えるよ。<sup>[註3]</sup>

「壊す」の意味においては外見的な損傷よりは機能の損失が優勢となるため、(11)と(12)の前件に「壊す」が使用できるようにするためには、後件にはパソコンがその機能を失い、動かなくなっているという事象が続かなければならない。そのため、「依然として機能を保っている」という文脈が続く(11)と(12)の容認度は落ちるが、(11)は読み手によっては判断が揺れ、(12)の場合、非文と判断する人の方が多いという差もある<sup>[註4]</sup>。これは、(11)の場合、「落っことして」という外見的な損傷を表す言葉が入っており、「壊す」の結果が外見的な損傷のみに留まっているという状況に関する情報が与えられているため、(12)より容認されやすくなると考えられる。つまり、「壊す」の意味においては機能の損失が中心となり、読み手にとって文脈上外見的な破損が想定しにくい場合、機能の損失としてのみ捉えるようになると考えられる。

#### 3.1.2 外見的な損傷を伴わない場合

「壊す」の対象が人工物であり、特に組み立てられた機械類などである場合、「壊す」は、対象にある作用が及び、「内部に異常を起こして正常な働きを損なわせる」(森田1989)ことを意味する。この場合、外見の損傷は意味されない。

- (13) うっかりコーヒーをこぼして、パソコンを壊してしまった。  
 (国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』)

(13)の場合、外形の異常はなく、パソコンそのものの完全な状態から変わっていないが、水分によってパソコンが正常に作動しなくなったことを表す。このような場合は対象物が外見的に損傷するという過程を経ずとも、機能のみが損失することになる。この場合、「壊す」意図はないと解釈される<sup>[註5]</sup>。

以下の(14)は外見的な損傷を伴わない機能の損失が「壊す」で表されている例であるが、静電気により機器の外形が損傷し、それが機能に影響するとは考えられないことから、外形の損傷がなくても「壊す」が使えることがわかる。

(14) 内蔵型記録型DVDドライブの交換／増設時は、機器を壊さないように、体に帯びている静電気を除去してから行うことも忘れないでください。

(小川夏樹・松永融著『最新ハードディスク&DVD最強テクニック』2005:548)

一方、「부수다 (pwuswuta)」は、前述のように、外見的な破損を伴わなければ使用できず、「壊す」のように対象物の内部における機能の損失のみを表すことはできない。この点で、「機能の損失」がその意味において肝心であり、必ずしも「外形の損傷」を伴わなくても使用できる「壊す」とは異なる<sup>[註6]</sup>。韓国語の国語辞書における「부수다 (pwuswuta)」の語釈にも、「만들어진 물건을 두드리거나 깨뜨려 못 쓰게 만들다 (人工物を叩くなり割るなりし、使えなくする)」(韓国国立国語院『標準国語大辞典』: 日本語訳は筆者による)とあり、対象の機能が損なわれる際には外形の損傷が不可欠であることを示している。なお、「壊す」とは異なり、動作主による加撃行為が反復されなければならない、このような行為には動作主の目的意識、意図性が明確に現れる(金2000:169)。このように「부수다 (pwuswuta)」が使われるためには、最終的には対象の機能が損なわれるにしても外見的な損傷が不可欠である。

以上のことから、「壊す」と「부수다 (pwuswuta)」の違いは、機能を持つ(と判断される)対象物の内部に異常を起こして働きを損なわせる「内部的な損傷」のみが意味できるか否かにあると言えよう。

(15) \*生地をボール状に丸めて油で揚げ、ハンマーで壊して食べるお菓子が最近人気である<sup>[註7]</sup>。

(15') 공처럼 둥글게 반죽해서 기름에 튀겨, 망치로 부수어서 먹는 과자가 최근 인기이다.

(15) の韓国語訳である(15')において「부수다 (pwuswuta)」が使用できるのは、「壊す」とは異なり、「부수다 (pwuswuta)」は「対象物と同程度以上の強度をもつ物との衝突により複数の破片ができる」(金2000)という意味が優勢となるためである。(15)と(15')で行われる行為は、「対象物をより食べやすくする」行為であり、お菓子としての機能を損失させる行為ではないため、文

脈上「壊す」は使用できなくなる。このように、「壊す」で表せない事象も「부수다 (pwuswuta)」では表せる場合がある。これが、韓国語学習者の誤用の一因になっていると考えられる。つまり、韓国語学習者は「부수다 (pwuswuta)」の影響を受け、「壊す」を動作主による外形の破壊行為としてしか捉えておらず、外形の変化をもたらす動詞としてしか理解・産出できない可能性があると考えられる。

### 3.2 対象物が人工物以外である場合

「壊す」は以下の(16)のように、自然物に対して用いることは不自然であるが、(17)のように自然物を対象にする場合であっても、その自然物が人間にとって何らかの働きや価値をもつもの、役に立つものであり、それが破壊・損傷を被って働きや価値を失う場合には使用できる(森田1989)。しかし、「부수다 (pwuswuta)」の場合、(17)の韓国語訳である(17')のように使用することはできない。

(16) \*木を壊す／\*山を壊す／\*湖を壊す<sup>[註8]</sup>

(17) 自然を壊す／山水の美を壊す／大自然の景観を壊す

(17') \*자연을 부수다／\*산과 물의 아름다움을 부수다／\*대자연의 경관을 부수다  
(森田1989: 韓国語訳は筆者による)

「부수다 (pwuswuta)」が使われるためには、「硬い固体をそれより強いと同じ位の強度をもつもので叩き、複数の破片ができるようにする」(金2000)という動作が必須であり、どれほどの打撃を加えるか、また、その打撃の結果、発生した破片の数(量)はどの程度であるかが問題になる。機能の損失の有無が特に問題視され、自然物に対しても機能を持つものと認識すれば使用できる「壊す」とは異なり、「부수다 (pwuswuta)」は打撃によって複数の破片ができるようにすることに焦点が置かれるのである。そのため、自然物に対する「부수다 (pwuswuta)」の使用は不可能である。なお、以下の(18)と(19)の転用法から、対象が人工物ではなくても「壊す」が使用でき、「壊す」において「機能を持つものの働きを失うようにする」という意味が肝心であることがわかる。

(18) だから、急いでかきこむと歯がギューとしみることもあるし、もちろんお腹だってびっくりしてしまいます。いくらおいしいからといって、食べ過ぎると必ずお腹をこわしてしまいますからご用心。

(竹内均編『頭にやさしい雑学読本』1991:404)

(19) やはり、抄子にとっては子供と家庭が大切なのであろうか。とやかくいっても、家庭をこわす気まではなさそうである。

(渡辺淳一著『うたかた』1990:913)

(18) の場合、お腹の表面に傷などがつき、外見上の破損があったとは考えにくく、「内臓が果たす正常な機能の損失」を表すために「壊す」を用いている。(19) の「壊す」も、「家庭」という社会組織のまとまり・つながりを喪失させ、バラバラにすることで、結果的に組織としてうまく機能できなくすること(国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』)を表している。これらの対象に「壊す」が使用できるのは、「壊す」の意味において「機能の損失」に焦点が当たっているためであることがわかる。

ただし、(20) のように、人工物ではないと捉えられるものでも、機能の損失ではなく、外形の破壊に焦点が当たっているように見える例もある。

(20) 道をふさぐ巨大な岩をダイナマイトで壊そうとしたが、壊せなかった。

(国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』)

これは、岩が有する「道をふさぐ妨害物としての機能」を失わせるという解釈が可能であり、「外見上の破損による機能の損失」を表していると言える。

以上のことを踏まえると、「壊す」と「부수다 (pwuswuta)」による変化の過程は以下のように図示できる。

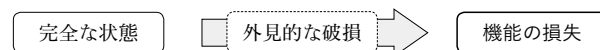


図1 「壊す」が表す変化の過程

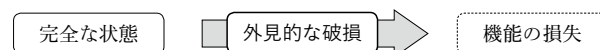


図2 「부수다 (pwuswuta)」が表す変化の過程

図1に見るように、「壊す」の場合、機能の損失に至るまでに必ずしも外見上の破損を伴う必要はない。機能の損失があれば、外見上の破損を伴う場合にも、伴わない場合にも使用できる。一方、図2が示しているように、「부수다 (pwuswuta)」が表す動作によって対象物が完全な状態を保たなくなるためには、外見上の破損が必須である。対象物が外見上に破損すれば用いることができ、前掲の(15')のように必ずしも機能の損失につながるわけではない。すなわち、機能の損失を伴う場合にも、伴わない場合にも使用できる。

### 3.3 自動詞「壊れる」の場合

「壊す」が「機能の損失」を表す側面が強いということは、自動詞化した形である「壊れる」になり、動作主が文に現れなくなった場合により明確になる。

(21) どうやらそのドアは、ちょうつがいがかわれ、床に落ちていたものらしい。

(ストーリー原作;瀬川昌男訳・文;スズキコージ画『吸血鬼ドラキュラ』1999)

(21') 아무래도 그 문은 경첩이 부서져 바닥에 떨어져 있던 거라는 것 같다.

(21) のように、外見上の損傷により、ドアに装着されているという元来の形を失った場合に、「壊す」の相対自動詞である「壊れる」を用いることができる。このような場合、「부수다 (pwuswuta)」と対を成す自動詞である「부서지다 (pwusecita)」を用いて(21')のように表すことができる。この例に基づくと、外見上の損傷が、最終的には機能の損失を表すと解釈できるため、「壊れる」と「부서지다 (pwusecita)」が意味上対応しているように見えるが、機械類の内部に異常が起これ、動かなくなることを表す際には両者の意味のズレが生じる。「機能の損失」に焦点が当たる「壊れる」は、「故障する」の意味に近いと言える。韓国語でこのような機能の損失を表す場合、「부서지다 (pwusecita)」を使わず、「故障する」に対応する漢語動詞「고장나다 (kocangnata)」を用い、これが「壊れる」の意味を担っている<sup>[註9]</sup>。この場合、「부서지다 (pwusecita)」を用いると違和感が感じられる。これは、「부수다 (pwuswuta)」が機能の損失による人工物の不具合を表す場合、必ず外形上の損傷を伴うためである。つまり、「부서지다 (pwusecita)」が使われる場合、外的な損傷なくしては、「人工的な物



の機能の損失」は表せない。

- (22) 車のハンドルが壊れた。
- (22') 자동차 핸들이 부서졌다.
- (22'') 자동차 핸들이 고장났다.

(22) は、「外見上の損傷がない場合の機能上の損傷」として解釈することができるが、同じ出来事に「부서지다 (pwusecita)」を用いると、「車のハンドルが[何かの衝撃によって外見的に破損し]壊された」にしか解釈できない。(22) が表し得る「外見 (ハンドルの表面) には傷もないが、内部的な機能の麻痺によりハンドルが正常に動かなくなった」ことを表すには、(22'') のように別の動詞 (「고장나다 (kocangnata)」) を用いなければならないのである。

自動詞を用いると、動作主を明示せず、意味上の対象物の内的な変化を表すことができる。しかし、他動詞の「壊す」であっても、前掲の (9) と (10) のように動作主の働きを強く含意する場合もあれば、(13) や (14) のように、対象物が「機械類など、複雑な構造をもつ人工物」であり、その外形には変化の痕跡が残らない内的な変化のみを表す場合もある。このように「内部的な機能の損失」に焦点が置かれ、外形の損傷は問題視されない場合の「壊す」は、「壊れる」のみならず、「故障する」とも意味的に自他対応すると考えることができよう。

その反面、「부수다 (pwuswuta)」は自動詞形の「부서지다 (pwusecita)」になっても、他動詞本来の「硬い固体をそれより強いか同じ位の強度をもつもので叩き、複数の破片ができるようにする」という意味を失わず、文に現れない動作主による働きかけが対象物の変化の前提となり、「外見上の破損」の意味を強く保つ。そのため、(22') は外見上の破損として解釈される。「壊れる」の場合、「壊す」が表す「動作主が直接破壊にとりかかる動作」による外見への働きかけではなく、対象物の変化だけを表すため、「壊す」以上に対象物が機能を持つ人工物であることが多く<sup>[註10]</sup>、「機能の損失」が意味的により優勢となりやすい。そのため、外見上の損傷の有無に関係のない対象物の内的な変化のみを意味しやすくなると考えられる。

以上を踏まえると、「壊れる」と「부서지다 (pwusecita)」が表す変化の過程は以下のように図示できる。

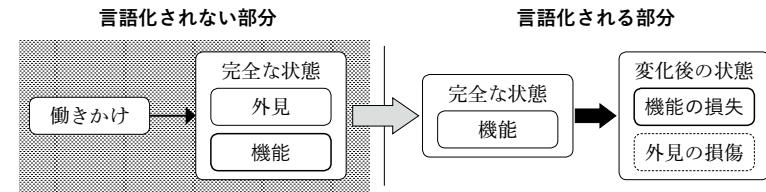


図3 「壊れる」が表す変化の過程

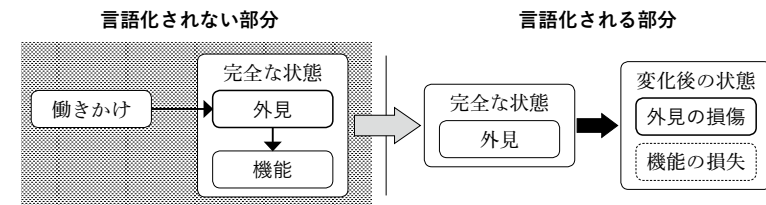


図4 「부서지다 (pwusecita)」が表す変化の過程

図3と図4が示しているように、変化前の完全な状態の対象物が「外見」と「機能」で構成されているとすると、「壊れる」の場合、動詞で表現されない状態 (言語化されない部分) において、外見にかかる働きか、目に見えない何らかの要因によって対象物が持つ機能が損失されることが重要である。これが自動詞で言語化される際には、対象物の機能が完全な状態であるかが問題視され、外見が損傷していない際の機能の損失を表すことができる。外見の損傷は、機能の損失に付随的に伴われるため、必須ではない (図3の点線で表している部分)。一方、「부서지다 (pwusecita)」は、言語化されない部分において外見のみへの働きかけが想定され、自動詞であっても、結果をもたらした動作主の働きかけが含意される。つまり、「부서지다 (pwusecita)」が使用される場合、実際は図4の縦線の前の部分までが想定されると考えられる。そのため、「壊れる」のように自然と内部的な不具合が生じることを意味することはできない。言語化される際には、他動詞「부수다 (pwuswuta)」と同じく、対象物が表面的に完全な状

態であるかが問題視され、それが機能の損失につながる場合もあれば、以下の(23)のように機能が損なわれない場合もある(図4の点線で表している部分)。「부서지다 (pwusecita)」が機能の損失を表す場合は、外からの力による外見的な損傷があってこそ、それが内部的な損傷につながり、機能が失われるという意味に捉えられるのである。

(23) 박씨는 잘게 부서진 흙덩이를 화분에 넣어 꽃을 심었다.

(金2000:筆者により加筆修正)

(23') \*パクさんは小さく壊れた土の塊を植木鉢に入れ、花を植えた。

(23') は、(23)を「壊れる」を用いて日本語で表した文であるが、(23)では土の塊が花を植える際に使われており、形(外見)の変化によって使い道がなくなるわけではない。つまり、対象の機能が損失し、役に立たなくなるという事象ではないため、「壊れる」は使用できない。

### 3.4 学習者による「壊れる」の誤用の可能性

韓国語を母語とする学習者の発話を収録している以下の学習者コーパスのデータからも、「壊れる」の意味習得に母語動詞の意味境界が影響している様子が窺える。

(24)

N(母語話者): あーあーあー, だから自分が来る前に, そういう掃除機はあったけど〈はい〉, 壊してるからお母さんは〈はい〉, 古い掃除機使ってたのね?

L(学習者): はい, もーそんな掃除機をね, 僕は, 僕, この, ガーってね, あの, その, こわこわガラスで壊れたんですよ〈うん〉, ガラスで壊れるじゃなくて, ガラスは何ですか?

N: 割れる

L: あ, 割れたんですよ, カラスが, ガラスが割れて, それを掃除機でやって{笑}〈うん〉, えっとね, 掃除機が{聞き取り不可}, 掃除機が壊れた

んですよ〈うん〉, だから

(「C-JAS」、中国語・韓国語母語の日本語学習者縦断発話コーパス:  
K2韓国語話者、第2期/8期)<sup>[註11]</sup>

(24)の学習者は、最初の発話で「ガラスで掃除機が壊れる」というふうに、掃除機の機能の損失を「壊れる」で表現していることから、「壊れる」の意味をある程度習得しているように見える。しかしその使用が定着してはいないため、外見的な破損を表す母語の「부서지다 (pwusecita)」の意味の影響を受け、混乱しているようである。最初の発話で掃除機の機能の損失を「壊れる」で表すことができたが、次の文でガラスの破壊も表す必要があり、そこに適切な動詞として何を使えばいいかまではわからないのである。そこで、母語で外形の破壊を表す「부서지다 (pwusecita)」を思いつき、それに対応する「壊れる」が第一候補として思い浮かんだが、日本語ではガラスの破壊は「壊れる」で表さず、別の動詞を用いるということがわかっているため、どの動詞を用いるべきかを会話相手の母語話者に尋ねている。「割れる」を用いるということを会話相手に教わってからは「壊れる」が機能の損失を表すということを再認識し、最後の発話では躊躇なく使えている。この例からは、外見的な損傷を伴わなければならない「부수다 (pwuswuta)・부서지다 (pwusecita)」を介した学習では、機能の損失が中心的な意味になる「壊す・壊れる」の習得に混乱が生じ、日本語では別の動詞で表現する「機能の損失に焦点が当たらない外見的な変化」に「壊す・壊れる」を用いるという誤用につながる可能性が窺える。このような学習者の理解が誤用として現れたものが冒頭に掲載した(1)と(2)であると言えよう。

## 4 結論

本稿では、「壊す」の意味を韓国語の「부수다 (pwuswuta)」と比較しながら考察し、「壊す」は機能の損失を伴わなければ用いられず、対象が機能を持つものと判断される際に用いられるということを示した。ここでは本稿で指摘した「壊す」と「부수다 (pwuswuta)」の意味上の特徴を踏まえ、「壊す」の意味を学習する際、韓国語学習者にどのような理解を促す必要があるかを述べる。第一に、学習者は対象物が機械などの人工物である場合、「壊す」が「부수다

(pwuswuta)」のように「硬い物に力を加えて、その形を変形させたり、バラバラにする」という意味を表すこともできるが、「外形を損傷せず内部に異常を起こして機能を失わせる」場合にも用いることができるということ、および、その場合には「機能を失わせる」という意図がないことを理解する必要がある。第二に、「壊す」は「早수다 (pwuswuta)」と異なり、機能を持つ自然物に対しても用いることができるということを理解する必要がある。第三に、「壊す」が「壊れる」になり、動作主を明示しない場合、「人工物の機能のみの損失」を表しやすく、「부서지다 (pwusecita)」のように必ず「外見的な損傷」を伴わなくても使用できることを理解する必要がある。特に「機能の損失」における「早수다 (pwuswuta)」との相違が十分理解できていない場合、「壊す・壊れる」の過剰般化が起こる可能性があると考えられる。以上のような「壊す」の使用条件が習得されていない場合、不十分な意味学習と母語との意味のズレとの相互作用により、適切な理解と使用につながらない可能性があることが示唆できよう。

## 5 今後の課題

本稿の分析では、「壊す」が有する「機能の損失」の意味に注目し、対象物の外的な変化だけを表すことも不可能ではないが、内的な変化だけを表すことができるという点で学習者の母語とのズレがあることを指摘した。今後、本稿の分析に基づき、機能の損失を表す「壊す」に関する学習者の習得状況を調査すると同時に、日本語母語話者の「壊す」の使用実態の調査も行っていきたいと考えている。なお、本稿では詳しく論じていないが、3.1.2で述べたように、外形ではない機能の損失を表す韓国語の動詞に「망가뜨리다 (mangkattulita)」と「고장내다 (kocangnayta)」があるが、これらと「壊す」の対応関係も明らかにする必要があると考える。

〈名古屋大学大学院生〉

### 付記

本稿は、2016年10月2日に学習院女子大学で行われた、第8回日本語／日本語教育研究会において口頭発表した内容に加筆修正を加えたものである。当日、貴重なご意見をくださった方々に心より感謝申し上げます。

## 注

- [注1] …… (1) と (2) の「壊す」は、「腹立たしさのあまり」など、動作主の特別な意図を含意する文脈で使われると容認される場合もある。しかしながら、(1) は「割る」、(2) は「折る」が使用されるのが一般的であろう。
- [注2] …… 本稿では、日韓・韓日辞書(『Prime日韓／韓日辞書』、『NAVER辞書(民衆書林編集局(編))』)を参考にし、第一訳語として「壊す」と「早수다 (pwuswuta)」が相互掲載されていることにより、対応していると見なす。また、韓国語のローマ字表記はYale方式に従う。
- [注3] …… 本稿において、出典を明記していない例文は全て作例や筆者による引用文の訳文である。
- [注4] …… 日本語母語話者に(11)と(12)が容認できるか否かを尋ねた結果、(11)を7名中5名が容認し、(12)は7名全員が容認しなかった。
- [注5] …… 宮島(1985)は「ドアをあけたが、あかなかった」類の、主体の意図性が否定された構文を通して「壊す」を結果性の強い動詞であるとし、動作とともに意図された結果の達成を表す性質が強いと報告している。しかし、水谷(1987)は、機能の損失を表す「借りていたストーブが壊れてしまいました」という文を例に取り、意図的な行為に限らず、自分に何らかの責任がある場合は「壊しました」と表現でき、壊れたことに対する自己責任を感じていることの表現形式であると述べている。つまり、言語使用の観点から考えると、自動詞・他動詞どちらも使用できる状況において選択される他動詞表現は、当該事態の描写のために自動詞表現・他動詞表現という選択肢から話し手の表現意図を反映し、選択された結果であり(吉成・バルデシ・鄭2010)、「壊す」は動作主の非意図的な行為を表す場合にも用いることができる。
- [注6] …… (13)は、「早수다 (pwuswuta)」では表すことができず、「망가뜨리다 (mangkattulita, 機能を失わせる)」と「고장내다 (kocangnayta, 故障させる)」といった別の動詞で表される。
- [注7] …… (15)の場合、「生地をボール状に丸めて油で揚げ、ハンマーで割って食べるお菓子が最近人気である。」の方が適切であるが、「割る」は、目的を達成させるための手段を表し、対象の価値を落とさない場合、「壊す」に言い換えられない(森田1989)(例:「薪を割る」、「スイカを割る」、「せんべいを割って食べる」など)ためである。
- [注8] …… 森田(1989:458)で(16)はいずれも非文とされているが、「山を壊す」に関しては、「木を壊す」「湖を壊す」に比して容認されやすく、「自然豊かな山を壊す」のように、文脈によってはさらに容認度が高くなるようである。
- [注9] …… 「機能の損失」を意味する場合、「고장나다 (kocangnata)」のみならず別の語の「망가지다 (mangkacita)」で表すことも可能である。
- [注10] …… 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(略称、BCCWJ)の「～が壊れる」の頻度の高い上位10項目においては、「関係が壊れる」・「組織が壊れる」の2



項目を除き、共起する名詞（対象物）がパソコン関連の用語など、人工物である例であった。

[注11]…… (24)の学習者は、日本に滞在しながらJSL環境で日本語を学習した学習者である。

---

## 参考文献

- 国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp> (2016年5月10日参照)
- 国立国語研究所 (1984)『日本語教育のための基本語彙調査』秀英出版
- 国広哲弥 (1970)『意味の諸相』pp.148-160. 三省堂
- 水谷修 (1987)『話しことばと日本人—日本語の生態』pp.143-146. 創拓社
- 宮島達夫 (1985)「ドアをあけたが、あかなかった—動詞の意味における〈結果性〉」『計量国語学』14(8),pp.335-353. 計量国語学会
- 小学館辞書編集部 (編) (2003)『使い分けの分かる類語例解辞典』小学館
- 薛惠善 (2016)「韓国語を母語とする日本語学習者による切斷・破壊動詞の使い分け」『日本語文学』74,pp.43-68. 日本語文学会(韓国)
- 森田良行 (1989)『基礎日本語辞典』pp.457-460. 角川書店
- 吉成祐子・ブラシャント・バルデシ・鄭聖汝 (2010)「非意図的な出来事における他動詞使用と「責任」意識：日・韓・マラーティー語の対照を通じて」『ことばの対照』pp.175-189. くろしお出版
- 김준기 (2000)『한국어 타동사 유의어 연구』pp.159-171. 한국문화사 [金俊基 (2000)『韓国語他動詞類義語研究』pp.159-171. 韓国文化社]
- 국립국어원『표준국어대사전』[韓国国立国語院『標準国語大辞典』]<http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp> (2016年5月10日参照)
- 동아출판 편집부 (東亜出版編集部) (編) (2016)『Prime 日韓/韓日辞書』『NAVER 辞書 (민중서림, 民衆書林)』<http://jpdic.naver.com/> (2016年5月10日参照)

---

## 例文出典

- 国立国語研究所『C-JAS (Corpus of Japanese as a second language, 中国語・韓国語母語の日本語学習者縦断発話コーパス)』<http://c-jas.jp.org/main.py> (2016年7月1日参照)
- 尹亨仁 (編) (2009)『デイリーコンサイズ韓日・日韓辞典』三省堂
- 『NINJAL-LWP for BCCWJ (BCCWJ『現代日本語書き言葉均衡コーパス検索システム』)<http://nlb.ninjal.ac.jp/> (2016年6月27日参照)
- 금성출판사 편집부 (2006)『뉴에이스 일한사전』금성출판사 [金星出版社編集部 (編)『ニューエイス日韓辞典』金星出版社]